

## 第7回トキの野生復帰に向けた川づくりアドバイザー会議概要

■開催日時：令和6年3月5日(火) 13:00～15:00

■開催場所：トキ交流会館大ホール（新潟県佐渡市新穂潟上 1101-1）

■アドバイザー出席者（五十音順、◎は座長、※はオンライン参加、敬称略）

氏名	所属	専門分野
尾崎 清明	公益財団法人山階鳥類研究所 副所長	生態学(鳥類)
島谷 幸宏※	熊本県立大学 特別教授	河川工学・河川環境
◎関島 恒夫	新潟大学農学部農学科 教授	動物生態学
服部 敦※	国立研究開発法人土木研究所河道保全研究グループ長	河川工学
遊磨 正秀※	全国ホテル研究会 会長	生態学・環境学
陸 旻皎	長岡技術科学大学環境社会基盤工学分野 教授	河川工学

### ■議事

- 1 天王川自然再生事業のこれまでの取組
- 2 天王川自然再生事業の今後の整備方針
- 3 モニタリング調査結果と今後の調査方針
- 4 今後の予定



### ■会議の概要

前回のアドバイザー会議で出た課題に対し、検討結果を説明し、天王川自然再生事業の今後の整備方針と、モニタリング調査の今後の調査方針について、アドバイザーから意見・助言をいただいた。

### ■県からの説明概要

議事	説明概要
1 天王川自然再生事業のこれまでの取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第5回アドバイザー会議で議論した計画、第6回アドバイザー会議の内容を確認。</li> <li>・ 第6回アドバイザー会議で出た、洪水時の水の流れの改善に対する意見と、モニタリング調査の実施方針に対する意見を確認。</li> </ul>
2 天王川自然再生事業の今後の整備方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 洪水時の水の流れに対する、流量や導流堤の有無など様々なケースで検討が必要との意見に対し、4つのケースを設定、平面二次元流況解析を実施し、その結果を説明。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのケースも一長一短があることから、当初コンセプトを活かし、順応的に整備ができるように、当初計画断面で整備を実施する。状況に応じて形状変更ができるようにブロックマット等の構造物の設置は最小限にとどめ、順応的に整備を進めていくことを説明。</li> </ul>
3 モニタリング調査結果と今後の調査方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モニタリング調査は工事実施後の影響を評価するため、また、評価結果を維持管理にフィードバックすることを目的にしていること、実施分担と調査区域を説明。</li> <li>・工事実施前の初期調査を約5年間実施したことを報告、次期調査計画方針では、地形改変後の調査に重点を置き、工事中調査は必要な調査のみを実施することを説明。</li> </ul>
4 今後の予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、新河道への切替実施に向けて施工を進めていくことを説明。</li> <li>・河道切替、ウエットランド及び湿地への河川水流入後、計画に沿った機能を発揮しているか検証し、必要に応じて『アドバイザー一会議』を開催する。</li> </ul>

#### ■アドバイザーからの主な意見・助言

##### 【天王川自然再生事業の今後の整備方針】

- ◆平面二次元流況解析を行ったことで流速分布が把握できている。河床材料の配置の仕方など、今後の整備にも活かすことを考えるとよい。メリハリのある整備をしていくことが肝要である。
- ◆湿地を作るという当初のコンセプトで整備を進め、状況に応じて、変更していくことが妥当。
- ◆予想した通りには進まないことが多い。最初に想定した状況を常に守るのではなく、変形をどこまで許容するかが重要であり、どこまで許容するかを合意しておく必要があると考える。
- ◆今回平面二次元流況解析を導入したことで、理解しやすく、合理的な判断ができるようになったと考える。今回の協議を踏まえ、当初計画断面で整備する方針で当協議会は了解した。

##### 【モニタリング調査結果と今後の調査方針】

- ◆現河道にも水位計を設置することを検討していただきたい。
- ◆濁度計の設置場所については水位計に近い場所が望ましい。
- ◆モニタリングを長期的に継続していくことは難しいと考えられる。評価指標を何にするかが重要である。河道の切替前に検討をしておくべきである。
- ◆本プロジェクトが終了したときにこのモニタリングが止まってしまうことを懸念している。モニタリング調査の目的を明確にして、目的との関連性を検討したうえで優先順位をつけていくべきだ。

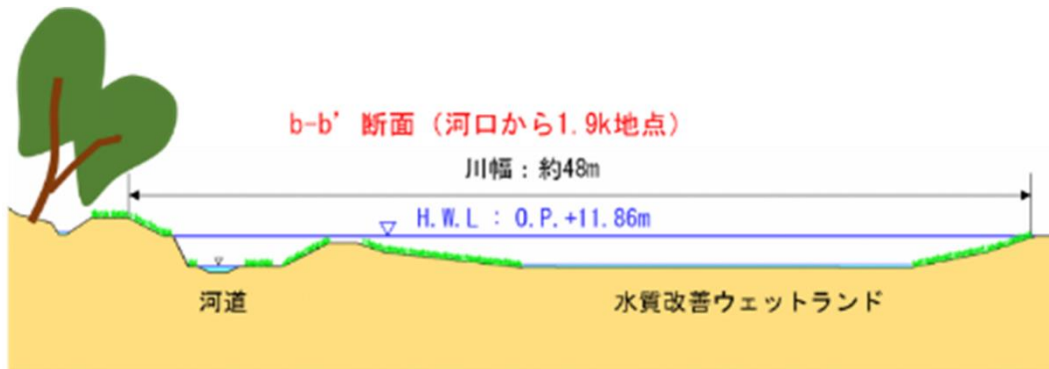
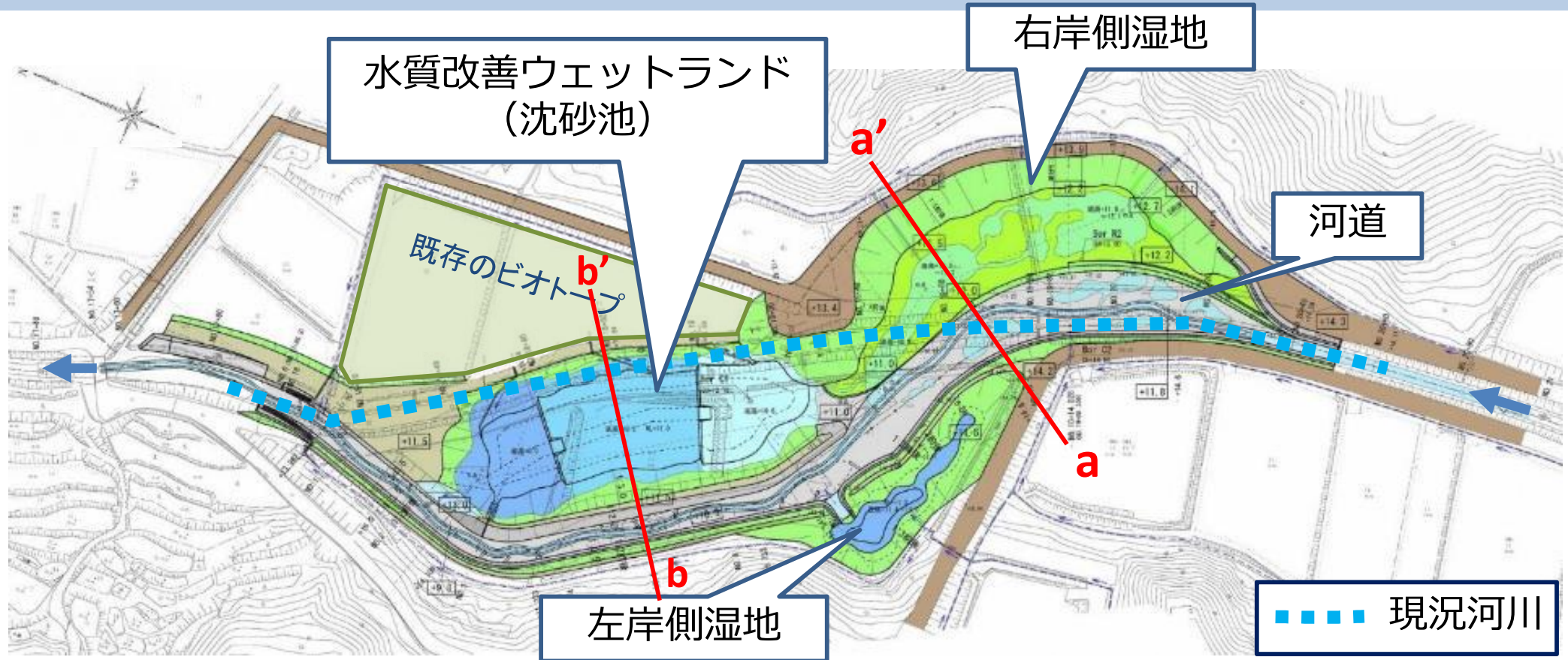
【今後の予定】

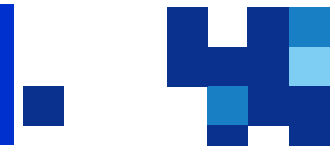
- ◆工事完了を待ってから事後モニタリングを実施するのではなく、河道の切替後から事後モニタリングを再開することが妥当であると考えている。事後モニタリングを行う場合、河道切替前にモニタリングの評価項目を検討する必要があり、次回のアドバイザリー会議では評価項目が協議事項になると考える。

(担当) 新潟県佐渡地域振興局地域整備部	計画調整担当 : 0259-74-4040
	治 水 課 : 0259-74-3530

# ◆自然再生エリアの計画概要

## ◆第5回アドバイザー会議（H29.8.4）で方針決定した最終計画案





# 第6回アドバイザー会議で出た課題

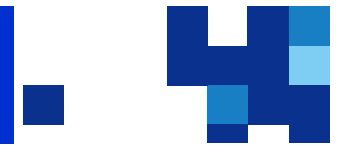
## ■ 洪水時における流況の改善に対するご意見

- 水深を深くする必要があるのか。湿地を作ろうとして導流堤（中堤）を設置した結果、当初のコンセプトと違うものになってしまう可能性もあるのではないかと。
- 導流堤の高さについては検討しても良いと思う。導流堤の高さを低くしても良いのではないかと。
- 平面二次元解析で流量や導流堤の有無など様々なケースで検討するのが良い。手戻りのないように進めるべきだ。護岸の有無なども検討したらよいと思う。
- 今進めている工事に影響のない範囲で検討するべきだ。

## ■ モニタリング調査の実施方針に対するご意見

- モニタリング調査の詳細について記載がないため、評価はできない。またこれまでのモニタリング調査結果を共有してほしい。
- 事後のモニタリングが重要である。工事後に、どのように自然が応答するのかをモニタリングし、何が起きているのかを把握する必要がある。
- 期待通りの機能をもつ施設になっているかを確認、改善につながる仕組みを明確にした方がよい。

# 比較検討結果を踏まえた今後の整備方針（案）



- 比較検討の結果、どの案も一長一短があり、当初計画のコンセプトに近づくように、かつ手戻りなく順応的に整備を進めていくものとする。
- 当初計画を基本として状況に応じて容易に形状が変更可能となるように、ブロックマット等の構造物の設置は最小限とする（下流の高流速が発生する範囲はかごマット等で保護）。

下流合流形状の見直しの可能性を踏まえて護岸を最小限にする。ただし流速が高い箇所のため留意（かごマット等での保護）

高さを見直す可能性を踏まえてブロックマットは原則設置しない。

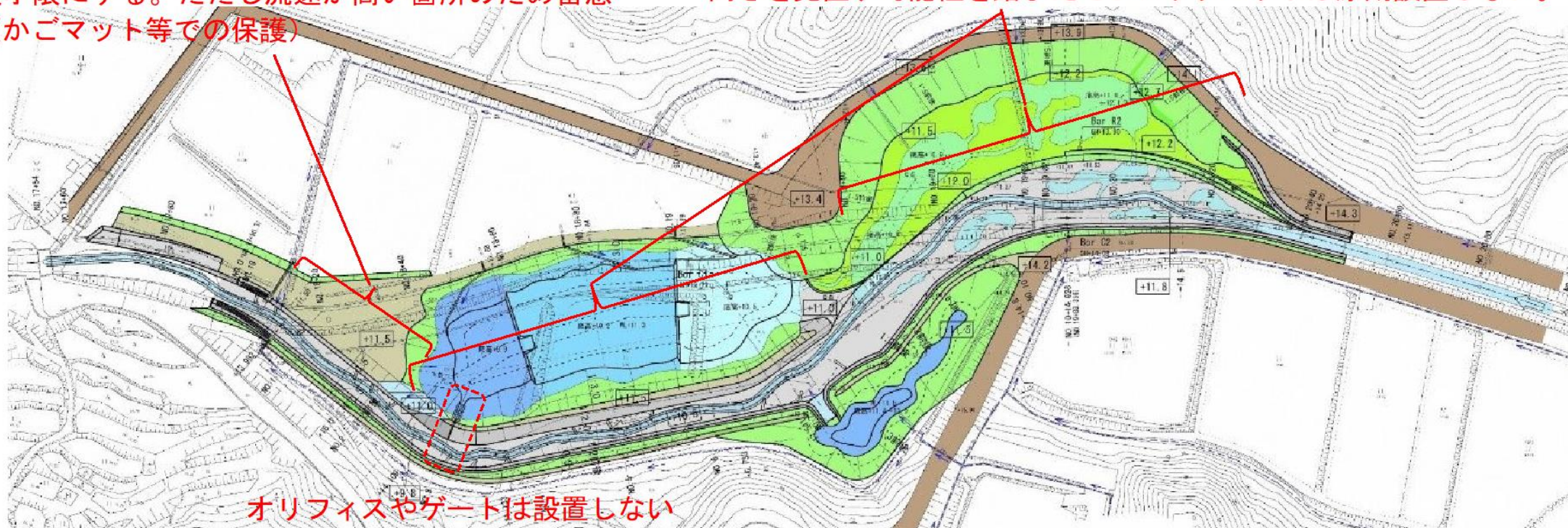


図1-2 今後の整備方針(案)の考え方